

Liquidが選ばれる理由

Liquid は、オンプレミスのインフラストラクチャーに残る性能や効率の限界を超えて、最近のAIやHPCなどで必要となる性能要件を満足いたします。

主要な利点

- » より短時間で結果を得られるように、ソフトウェアを介し適切なサイズのリソースを数分で物理サーバーに構成
- » ゼロタッチで俊敏に再構成が行え、進化するビジネスニーズにリアルタイムに適応
- » リソース利用率の向上はシステム全体の効率の改善をもたらし、ハードウェアインフラストラクチャーのサービス化を可能に

主要機能

- » ベアメタルサーバーのコンポーザビリティ
- » ソフトウェアを介したきめ細かい拡張性
- » シンプルなUI、API、CLI 管理
- » クラウドオートメーションの統合
- » 自動化されたOSデプロイ
- » マルチファブリックサポート (PCIe、Eth、IB)
- » 大規模なスケーラビリティ

連絡先

Liquid Inc.
11400 Westmoor Circle, Suite 225
Westminster, CO 80021
office: +1 303.500.1551 email: sales@liquid.com

 サヴァンツ インターナショナル 株式会社
160-0023 東京都新宿区西新宿6-20-7
コンシェルシア西新宿タワーズウエスト 4F
電話: 03-4455-7531 FAX: 03-3346-5234
email: sales-contact@servants.co.jp
www.servants.co.jp

革新的なITの提供

Liquid Matrix CDIによるこれまでにないインフラストラクチャーの柔軟性と効率性を提供

概要

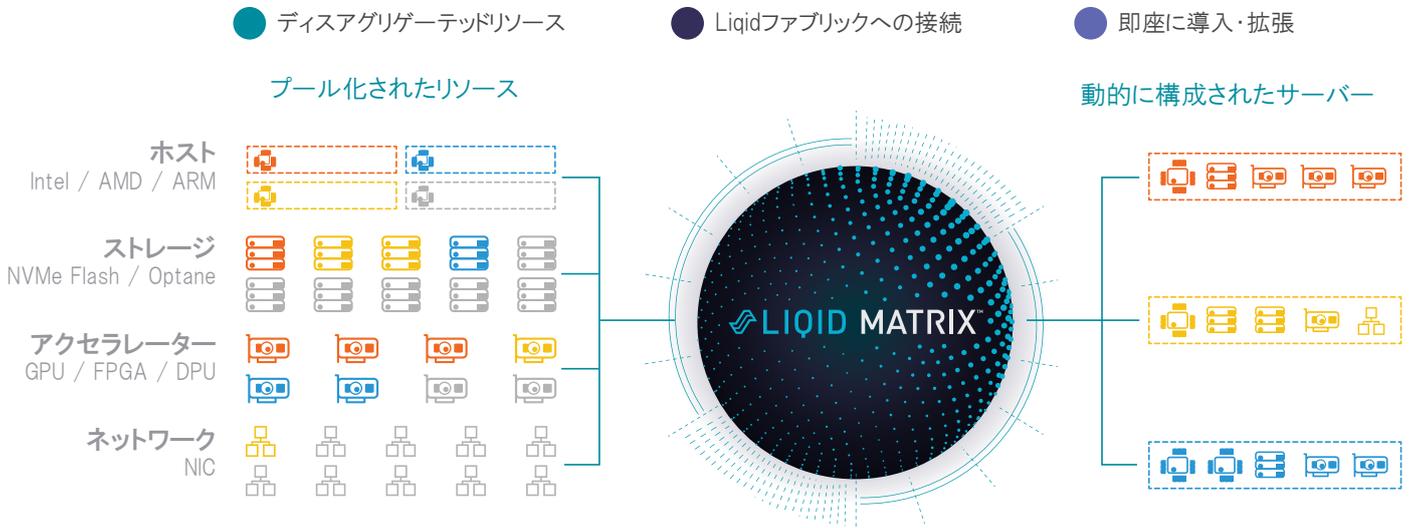
ステークホルダーが要求するAIやHPCなどのワークロードは際限なく増大しています。残念ながら、従来のサーバーインフラストラクチャーの制限は、ワークロードの処理生産性を低下させることはもちろん、宿命的なハードウェア構成の柔軟性の欠如を生み、十分に活用できていないリソースや手間のかかる作業をマニュアルで行うことによるコスト増加に繋がっています。

IT投資を最大化する一方で計算処理を加速したい法人にとって、Liquid Matrix®は、新しいソフトウェアベースのシステム構築を提案します。コンポーザブルディスクアグリゲータッド インフラストラクチャー (CDI) と呼ばれる処理生産性の改善とハードウェアの動的変更が可能な全く新しいコンセプトのコンピュータシステムは、法人全体としての資本効率や事業運営を改善するのに役立ちます。

Liquid CDIは、GPU、FPGA、NVMe SSDおよびストレージクラスメモリなどのPCIeデバイスを個々のサーバーのPCIeスロットから、新たに用意するPCIe拡張シャーシに集約することで共有リソース化して活用することを可能にします。このPCIe拡張シャーシ内のリソースは、PCIeファブリックスイッチ、イーサネットそしてインフィニバンドのような高速ファブリックを介して、オンデマンドでホストサーバーに割り当てます。Liquid Matrixソフトウェアにより、IT部門が用意可能なサーバーとGPUやストレージリソースを動的に接続することができ、その際物理的な接続性など心配することはありません。リソース不足やビジネスニーズの変更が生じた際は、PCIe拡張シャーシに新規リソースを追加することで、あるいは未使用のリソースを転用することで全体の投資効率を向上させることが可能です。

20年以上にわたって同じ方法でサーバーを導入し維持拡大してきたIT部門は、Liquid Matrixの採用により、自社のPCIeデバイスとサーバーのインフラストラクチャーをクラウドと同様のスピードと柔軟性に引き上げることが可能です。

新たなITのスピードと効率性へ



価値実現までの時間を加速:

Liquid Matrixは、サーバーを構成し導入するための時間を削減し、その時間を戦略的なビジネス目標のサポートに活用することを可能にします。LiquidのUI、API、CLIや、Slurmなどのクラウド自動化ツール・スケジューラーも活用することで、ワークロードに本当に必要なCPUからGPUの要件を満たせるようにベアメタルサーバーを動的にそれも瞬時に再構成することが可能です。また、このMatrixソフトウェアを介して、PCIeデバイスやサーバーに触れることなく、ステークホルダーのニーズに合わせたアプリケーションに最適な処理性能の提供が出来るようになります。

機敏性を向上:

Liquidファブリックを介して相互接続されたホストコンピュータ、ストレージ、GPUリソースは、制限なく希望のサーバー構成を実現できます。一例ですが、従来のサーバー設計では1Uサーバーに10台のGPUを搭載することは考えられませんが、Liquidを使用することで動的かつ瞬時に構成することができます。OSを再起動せずに需要に応じてオンラインでリソースを追加および削除できます。AIやHPCなどのリソース集中型ワークロードが増加している今、リソースの変化へ機敏に対応できることは非常に重要です。

更なる効率を:

余剰リソースを解放し、現在のワークロードに必要な十分なリソースでシステムを構成しませんか。そして需要に応じてスケールすることで最適なシステム運用を目指すことができます。貴重なGPUなどのリソースの利用率を最大化するために、プール化されたGPUを別のサーバーに割り当てることが可能です。Liquid CDIIにより、調達するシステム構成を現在の予見可能な要件から切り離すことができ、予測不能な将来の拡張ニーズや変更要件に備えることができます。例えば、CPUをアップグレードしたい時、高価なサーバー全体を交換する代わりに、新しいCPUとRAMを搭載した廉価な1Uサーバーを購入し、既存のサーバーからアクセラレーターとストレージリソースをコンポーズすることでTCOを抑制することで済みます。上記のように、LiquidのCDIIはOPEXの削減に貢献し、また、デバイスを手動で追加/移動/変更する労力および作業中の不慮のダメージのリスクから解放いたします。

[Liquid.com](https://liquid.com)でさらに詳しく